

1. 数学研究会の活動支援

数学研究会 顧問 橋井 匠 竹内 直己

1.1. 研究開発・実践に関する基本情報

時期/年組(学年毎参加数)		2021年4月～2022年3月 放課後(水～木)／3年8名・2年16名・1年6名																
		1a	1b	1c	2a	2b	3a	3b	4a	4b	5a	5b	6a	6b	7a	7b	8a	8b
	本年度当初の仮説	○		○	◎	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	本年度の自己評価	3		3	5	3	3	3	3	3	3	3	4	3	4	3	3	3
	次のねらい(新仮説)	○		○	◎	○	◎	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
関連	方針:内容:教材:																	
file	2021_SSH KHS MATH-J_3.pdf																	

1.2. 研究開発の経緯と本年度当初の課題

数学好きの有志により2019年度復部し、4年目を終える。①数学の学習 ②数学に関するコンテストへの積極的な参加と、部に所属しない生徒への情報発信や申し込み等の窓口 ③研究活動を通してのポスター発表 ④部誌の発行 これらの活動を通して、コミュニケーション力を高めるとともに、数学に関わる人材育成を図る。

1.3. 研究開発実践

(活動内容)

- ・「SSH KOBE H.S. MATH JOURNAL vol.3」の作成
- ・日本数学オリンピックへの参加

(結果・考察)

生徒一人ひとりが深く考え、研究したことを部内外で発表し、お互いに高め合うことを大切にしているが、本年も新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、全体が集まる場を設定しづらく、思うようにいかない場面が多かった。

日本数学オリンピックでは、昨年度は本選出場の人数が減少したことで惜しくも出場できなかったが、今年度は1名が予選を突破し、着実に力をつけている。数学の力だけでなく、部外との交流ではオンラインで行う場面が増えており、ICT機器を活用する力も向上している。

コロナ禍で活動の機会が失われている日は続くが、オンラインでの交流などを活用し、数学関係の部活動のある学校やSSH校と積極的に関わりをもっていきたい。

1.4. 「8つの力の育成」に関する自己評価と本年度の取組から見えてきた今後の課題

(2a) 挑戦:[成果]:部誌(MATH JOURNAL)発行に向けて原稿を作成する。[課題]:大会等に積極的に参加する。

(6a) 発表:[成果]:課題研究発表会で自分たちの研究を発表した。

[課題]:より伝わりやすい伝え方を工夫する。

(7a) 質問:[成果]:相手の発表を聞き、自分の意見をまとめ、質問できるようになった。[課題]:より積極的に質問する。